

株主との対話の推進と開示について

■機関投資家向け 各種説明会の実施（2022年度～2023年度上期）

開催時期	説明会名称	内容	主な登壇（説明者）
決算関連			
5月、11月	決算説明会（第2四半期、本決算）	通期業績予想および企業価値向上に向けた取り組み	代表取締役社長
7月、1月	決算説明会（第1、第3四半期）	第1、第3四半期実績	執行役常務（財務・IR担当）
その他トピックス・イベント			
2022年8月	事業説明会	事業モデル変革による成長戦略	代表取締役社長、代表取締役副社長、各部門長
2022年9月	IR Day	ASV経営の進化-サステナビリティと人財資産-	代表取締役社長、サステナビリティ諮問会議 議長、部門長
2023年3月	中期ASV経営 2030ロードマップ 説明会	2030年に向けたありたい姿、ASV指標、成長戦略	代表取締役社長
2023年6月	事業説明会	ICT・ヘルスケア領域における成長戦略	代表取締役社長、代表取締役副社長、各部門長および担当者
2023年9月	IR Day	ガバナンスの進化と知財戦略	代表取締役社長、独立社外取締役、部門長
2023年9月	味の素フーズ・ノースアメリカ社 見学会	事業説明、工場見学	現地法人長

決算説明会：[決算説明会 | イベント | IR情報 | 味の素グループ \(ajinomoto.co.jp\)](#)

事業説明会・IR Day：[事業説明会・IR Day | イベント | IR情報 | 味の素グループ \(ajinomoto.co.jp\)](#)

2030ロードマップ：[中期ASV経営説明会 | イベント | IR情報 | 味の素グループ \(ajinomoto.co.jp\)](#)

■個別対話概要（2022年度～2023年度上期）

対話の目的を最大化すべく、社内連携を強化し、投資家属性や対話の内容に応じてスピーカーの選定を都度実施。

延べ対話社数	投資家概要	対応者（案件により異なる）
約900社	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い投資スタイルの国内外機関投資家 多様な担当分野（アナリスト、ファンドマネージャー、ESG担当、議決権行使担当等） 	代表取締役社長、代表取締役副社長、独立社外取締役、執行役常務（財務・IR担当）、IRグループ、サステナビリティ推進部、法務・コンプライアンス部、グローバルコミュニケーション部 等

株主との対話の推進と開示について

■株主・投資家との対話テーマ事例（2022年度～2023年度上期）

株主・投資家との対話テーマ事例	当社の取り組み
<p>当社はROIC経営を推進しており、2030ロードマップの中でセグメントごとのWACCとROIC目標を開示し、成長の道筋を描いていることを評価。現場への浸透が鍵になると思うが、どのような工夫をしているのか。</p>	<p>当社では、マネジメントと従業員の対話の機会を積極的に設けており、その中でROIC経営を始めとした経営方針・戦略についても密に意見交換を行うことで、自分ごと化につなげている。また開示セグメントのみならず、事業単位ごとに細かく目標値が設定されており、各部門・個人が強くROICを意識した事業運営が可能な仕組みを構築しているが、投資家の皆様のご意見を参考にしながら、ROIC経営をより進化させていく。</p>
<p>ASV（事業を通じた社会価値と経済価値の共創）を実現し、企業価値向上を図っていくためには無形資産の強化が必須と考えるが、どのような戦略・取り組みが重要になるのか、ぜひディスカッションをさせてほしい。</p>	<p>当社では、人財、組織、技術、顧客の4つの無形資産の強化が重要と捉えている。特に全ての原動力となる人財資産については、一人一人のASVの共有や対話等による志の醸成と共感、手挙げ制の加速等を通じた挑戦や多様性の促進によりイノベーションを生み出し、ASV実現につなげている。本テーマに関して、投資家の皆様とのエンゲージメント機会を増やしていきたいと考えており、IRイベントの実施も含め工夫をし、企業価値向上をさらに加速していく。</p>
<p>指名委員会等設置会社への機関設計変更、サステナビリティ諮問会議の新設などガバナンス面での各取り組みが進化しているが、取締役会の実効性についてはどう評価しているか。</p>	<p>2023年、当社における取締役会の実効性を改めて定義し、より役割を明確化。その上で取締役会の構成、アジェンダ、議論の質を重視した展開をしており、実効性の高い取り組みを強化している。より実効性をご理解いただくために何が必要かを考え、今回、実際の取締役会での様子を動画でIRイベントにて開示。投資家の皆様からは一定のご評価を頂戴しているが、このような機会を元に対話を続け、ガバナンスの一段の進化を図っていく。</p>

■経営へのフィードバック体制

取締役会および経営会議メンバー、主要関係会社社長、各部門長等へタイムリーに情報を共有し、経営戦略に反映。

内容	頻度	報告方法
投資家・アナリストのコメント（即時に共有すべき内容）	都度	直接またはメール等
投資家・アナリストのコメント（決算時反響）	発表即日	メール
投資家・アナリストのコメント（対話時のコメント）	月1回	メール
IR戦略および年間計画と進捗報告	年2回	取締役会、経営会議にて直接

株式市場との対話、社内フィードバック、経営戦略への反映のサイクルを回すことで、ASV経営を一層進化させ、企業価値向上を実現していく